

8. 1. 長崎大学大学院 運動障害リハビリテーション学研究室

との合同研究会

日時：平成 30 年 3 月 10 日（土曜日）

会場：畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター

<講演>

沖田 実 教授（長崎大学大学院 運動障害リハビリテーション学研究室）
「筋性拘縮の病態とその発生メカニズム」

<研究紹介>

- ・ 本田祐一郎（長崎大学附属病院／長崎大学大学院 客員研究員）
「不動によって生じる骨格筋内のマクロファージ集積のメカニズム
ー筋性拘縮の発生に関わる分子機構の検討ー」
- ・ 佐藤剛介（畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター 客員研究員）
「経頭蓋直流電気刺激と有酸素運動の併用介入が圧痛閾値に及ぼす影響」
- ・ 今井亮太（畿央大学大学院 健康科学研究科 博士後期課程）
「橈骨遠位端骨折術後患者が示す運動の躊躇」
- ・ 西 祐樹（畿央大学大学院 健康科学研究科 博士後期課程）
「痛みの恐怖条件付けによる痛み関連行動特性」
- ・ 佐々木遼（長崎大学大学院 運動障害リハビリテーション学研究室 博士後期課程）
「ラット膝関節炎の急性期における寒冷療法の効果
ー適用温度の違いによる影響ー」

- ・大賀智史（長崎大学大学院 運動障害リハビリテーション学研究室 博士後期課程）
「不動に伴う筋痛の病態および発生メカニズムの検討」
- ・平瀬達哉（長崎大学医学部保健学科 助教）
「高齢者の慢性痛に対する介入戦略
－運動介入と教育指導を併用した介護予防プログラムの効果－」
- ・高村優作（畿央大学大学院 健康科学研究科 博士後期課程）
「半側空間無視の回復過程における代償戦略－無視空間への意図的視線偏向－」
- ・藤井慎太郎（畿央大学大学院 健康科学研究科 博士後期課程）
「半側空間無視における反応時間の空間分布特性
－注意障害と無視症状の関連性と脳損傷領域の検討－」

長崎大学大学院の沖田実教授の運動障害リハビリテーション学研究室から平瀬達哉先生、本田祐一郎先生、大賀智史先生、佐々木遼先生をお招きし、研究交流会が開催されました。当研究室からは、佐藤剛介さん（客員研究員）、今井亮太さん（博士後期課程）、高村優作さん（博士後期課程）、藤井慎太郎さん（博士後期課程）が研究内容を発表しました。金子研究科長にもご参加頂き、活発なディスカッションが行われました。沖田教授からは、「筋性拘縮の病態とその発生メカニズム」と題して研究室の最新のデータを踏まえた講演をして頂き、筋性拘縮の新しい知見を知る事ができ大変勉強になりました。



ブログ記事 ⇒ http://www.kio.ac.jp/nrc/neuro_kio_20180320

8. 2. 首都大学東京大学院 知覚運動制御研究室との合同研究会

日時：平成 29 年 11 月 1 日（水）

会場：畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター

<研究室紹介>

樋口 貴広 教授（首都大学東京大学院 知覚運動制御研究室）

<研究紹介>

- ・植田 耕造（畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター客員研究員）
「Lateropulsion に対する直流前庭電気刺激の効果」
- ・石垣 智也（畿央大学大学院 健康科学研究科 博士後期課程）
「触覚を介した二者間姿勢協調と社会心理学的要因との関係」
- ・藤井 慎太郎（畿央大学大学院 健康科学研究科 博士後期課程）
「パーキンソン病患者の姿勢障害の特徴抽出」
- ・水田 直道（畿央大学大学院 健康科学研究科 修士課程）
「脳卒中後症例における運動麻痺と歩行速度および下肢伸展角度の関連性
ー運動学/筋電図学的検証ー」
- ・室井 大佑（首都大学東京大学院 知覚運動制御研究室 博士後期課程）
「脳卒中片麻痺者における隙間通過行動と判断ー安全な隙間通過方法の検討ー」
- ・日吉 亮太（首都大学東京大学院 知覚運動制御研究室 修士課程）
「身体刺激を用いたメンタルローテーションの熟達化に関する検討
ー運動学習への効果的活用に向けてー」
- ・渡邊 諒（首都大学東京大学院 知覚運動制御研究室 修士課程）
「異なる身体部位によるダイナミックタッチと歩行の調整について」

首都大学大学院の樋口貴広教授の知覚運動制御研究室から室井大佑先生，日吉亮太先生，渡邊諒先生をお招きし，研究交流会が開催されました。

当研究室からは，ニューロリハビリテーション研究センターと実験機器のデモンストレーションを交えた紹介を行い，植田耕造さん（客員研究員），石垣智也さん（博士後期課程），藤井慎太郎さん（博士後期課程），水田直道さん（修士課程）が研究内容を発表しました。本学の大学院修了生も参加し，多くの人数で活発な意見交換を行うことができました。

樋口先生からは研究内容に対してだけでなく「いかに分かりやすく伝えるか」という点に関するご指摘・助言も頂きました。当研究室も「リハビリテーション」をキーワードに研究展開を行っていますが，臨床でいかに研究知見を使ってもらおうかという点においても多くの学びを得ることができました。



ブログ記事 ⇒ <http://www.kio.ac.jp/information/2017/11/06-1-5.html>